

第1章 要請の背景

モルドヴァ共和国（以下「モ」国とする）は1991年に旧ソ連邦から独立した国の一つであり、東、南、北はウクライナ、西はルーマニアに国境を接する内陸国である。人口は約437.8万人、国土面積は約337万ha(日本の約11分の1)で、国土の大部分はドニエストル川とプルト川に挟まれ、両河川が刻んだ低い丘陵上にある。

気候は湿潤大陸性気候で、首都キシニョフにおける平均気温は、1月はマイナス4.3、7月は21.4、年間降水量は約527.2mmである。民族構成はルーマニア系モルドヴァ人が約64.5%、ウクライナ人が約13.8%、ロシア人が約13%の他、ガガウス人(トルコ系キリスト教徒)、ポーランド人、アルメニア人、ブルガリア人、ユダヤ人等多くの少数民族から成る。公用語はルーマニア語の地方語とも言われるモルドヴァ語である。

「モ」国が位置する地域はかつてベッサラビアと呼ばれ、古来交通の要所に当たりその存在は近隣国から脅かされてきた。14世紀にはモルダビア公国が創立されたが、16世紀にはオスマン＝トルコの支配下に置かれるなど、その歴史は近隣国による侵略の歴史といっても過言ではない。

第一次世界大戦後にはルーマニアに一時的に編入されたが、これに対し旧ソ連邦は1924年にウクライナ共和国の一部にモルダビア自治共和国をつくった。さらに、1940年にはベッサラビアと北ブコビナを占領し、モルダビア自治共和国と合わせてモルダビア＝ソビエト社会主義共和国とし、約50年もの間旧ソ連邦構成共和国となった。

その後、1990年6月には国名をモルドヴァ＝ソビエト社会主義共和国に変更し、主権宣言を採択し、1991年5月に国名をモルドヴァ共和国に変更、同年8月に独立を宣言した。その後は西側諸国、旧ソ連邦諸国と現実的な外交政策を執っており、西に国境を接し民族的に近いルーマニアとの関係も良好である。

「モ」国は基本的に農業国であり、農業の全GDPに占める割合は約29%、労働人口においては約23.7%を占め、「モ」国最大の産業となっている。

「モ」国の主食は小麦、大麦、トウモロコシ、ジャガイモ等であり、気候と土壌(黒土地帯)に恵まれ、ブドウ等の果実やテンサイ、葉タバコ等の栽培も盛んである。

独立後は他のCIS諸国と同様に市場経済化を進めたが、経済状況は低迷の一途を辿っており、1996年には農業生産は10%減、GDPは3%減となるなど深刻な状況となった。これを受けて1996年5月、IMFは「モ」国に対して拡大信用供与措置を承認した。農業以外に見るべき産業を持たない「モ」国は、1998年に起こったロシア経済危機の影響により、さらに困難な財政状況に置かれ、農業資機材の新規購入が不可能となっている。

このような状況の下、「モ」国政府は我が国に対し、主要作物である小麦の増産及び生産安定のために必要な農業機械の調達につき、昨年度に引き続き食糧増産援助(2KR)を要請したものである。

今年度計画で要請されている資機材とその数量等は次頁表1-1のとおりである。

表1 1 要請資機材リスト

項目	要請 No.	標準リスト No.	品目 (日本語)	品目 (英語)	要請 数量	単位	優先 順位	希望 調達先
農機								
	1	リスト外	コバ イン・ハーベスタ(185HP以上)	Combine Harvester (185 HP or more)	50	台	1	DAC
	2	リスト外	乗用トラクタ(110HP以上)	4-Wheel Tractor (110 HP or more)	70	台	1	DAC
	3	T1-P7	リバースフルボトムプラウ(12"~16"x4)	Reversible Bottom Plow (12" ~ 16"x4)	70	台	1	DAC

本調査は、「モ」国が我が国政府に提出した要請書について国内解析を通じて選定資機材の品目・仕様等にかかる技術的検討を行うことを目的とする。